

2022. 5. 13

御沓さんの筆

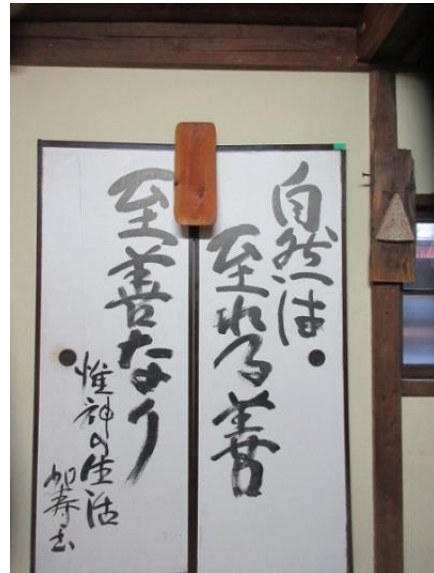
森紘一

御沓一敏さんの筆文字がわたしは好きだった。その筆運びには包み込むような温かさがあった。文言の意味内容をさらに際立たせ、見事な作品に仕上げしていくテクニックは秀逸だった。

無駄のない山水画を観る思いがした。

ある時、「どうしたら、そんな文字が書けるの?」と聞いたことがある。御沓さんは、「そう云ってもらっただけありがたいよ」と、いつもの自然体だった。

この書は昨年12月、東京ブロックの例会に出席された佐藤さんご夫妻が、帰路御沓さん宅に立ち寄りクルマで豊実まで運んだ作品です。



その御沓さんの、まさかの訃報は5月12日に届きました。御沓さんとわたしは大学のゼミ仲間、そこから佐藤賢太郎さんとコスモ夢舞台へ、お付き合いが続いていました。残念至極です。

今はただ、ひたすらご冥福をお祈り申し上げますのみです。合掌